

太陽グラントソントン

エグゼクティブ・ニュース

テーマ：グローバル・フィナンシャルシティ・東京
(FinCity.Tokyo<東京国際金融機構>)の目指す未来

執筆者：株式会社 大和総研 理事長 中曾 宏氏

要 旨 (以下の要旨は2分50秒でお読みいただけます。)

最近の日経新聞(2019年11月13日号)によれば、オーストラリア・2シンクナウ発表の2019年「革新的都市(世界500都市)ランキング」で米ニューヨークが首位となり、昨年トップの東京は2位に後退しました。交通インフラや文化などの総合力で東京は2位に留まったものの、技術革新競争に遅れないことが今後の課題とされています。

こうした中、今年4月に発足したFinCity.Tokyoは、アジア太平洋地域において東京が主要な金融センターとしての役割を回復することを目的とするもので、小池東京都知事の要請を受け前日本銀行副総裁の中曾宏氏が理事長に就任しています。今月号では、中曾理事長にFinCity.Tokyoの目指す未来について解説していただきます。

シンクタンク Z/Yen(ロンドン拠点)によれば、金融センターとしての東京は、ニューヨーク、ロンドン、香港、シンガポール、上海に次ぐ6番目に位置する。各国が金融機能の集積を推進するのは経済活動を支える効果が大きいからだ。東京は、この世界的な競争圧力に勝ち残っていく必要がある。FinCity.Tokyoでは、3つの目標を設定することにより、東京の金融センターとしての機能向上を図ろうと考えている。

目標の一つ目は、長期分散投資の促進である。日本には1,800兆円の家計金融資産が蓄積されている。高齢化社会での自助努力の一環として、蓄積された金融資産を効率的に運用し、より高いリターンを生むことは社会的課題である。二つ目は、世界を目指す日本やアジアの企業にとっての登竜門となることである。グローバルステージへ雄飛するための財務基盤の強化を図る場として東京の資本市場の機能強化は重要である。三つ目は、国際的な金融インフラの連携強化だ。金融を支える基幹インフラの連携強化は東京の市場参加者にとって利便性と安全性を高めると考えられる。

東京が世界の金融センターとしての役割を高めるチャンスが増していると考えるのは、以下の理由からだ。第一に、様々な不確実性に直面する世界経済の影響を受けながらも日本経済は比較的安定しており、投資環境が改善している点だ。政治的安定も大きな強みだ。さらに金融の基幹インフラの面では、日本銀行と民間金融機関の運営する決済システムは非常に高度な信頼性を誇っている。第二に、外国の資産運用会社や投資家にとって、重層的な日本の産業構造は、多様な投資機会を提供するという点だ。近年、我が国企業のコーポレートガバナンスは大きな進歩を遂げているし、配当等による株主還元、経営効率も進んでいる。第三に、生活の場としての日本の魅力だ。日本は自然に恵まれ、四季折々の趣があって、豊かな文化と美食体験を提供できる。また、東京は犯罪率が低く、世界で最も安全な大都市だ。

FinCity.Tokyoは現在、活動に賛同する34のメンバーにより支えられている。これには東京都のほかJPX(日本取引所)、金融機関、業界団体等が含まれる。今後さらに多様なメンバーを募るとともに、海外の金融都市との連携も図っていく。

世界の経済金融情勢は劇的に変化している。日本に向けて吹いている、かつてない追い風を受けて東京の金融機能を向上・発展させる千載一遇のチャンスを捉えたい。

「太陽グラントソントン エグゼクティブ・ニュース」バックナンバーはこちら⇒<http://www.grantthornton.jp/library/newsletter/>
本ニュースレターに関するご意見・ご要望をお待ちしております。Tel: 03-6438-9395 e-mail: mc@jp.gt.com
太陽グラントソントン マーケティングコミュニケーションズ 担当 藤澤清江

**テーマ：グローバル・フィナンシャル・シティ東京
(FinCity.Tokyo<東京国際金融機構>)の目指す未来**

株式会社 大和総研 理事長 中曾 宏

1. 初めに

私（筆者）は昨年（2018年）日本銀行（副総裁）を退任し、現在は「大和総研・理事長」のほか東京都の「グローバル・フィナンシャル・シティ東京（FinCity.Tokyo<東京国際金融機構>）・会長」の職にある。FinCity.Tokyoは、アジア太平洋地域における主要な金融センターとしての東京の役割を回復することを目的として、小池東京都知事のイニシアティブのもとで進められた構想で本年4月に設立された。以下は、金融センターとしての東京の相対的な利点等に触れ、FinCity.Tokyoが目指す方向について説明したい。

2. 東京の現在の位置

東京の金融センターの位置づけを世界の視点で見ると、国際金融センターのランキングを公開しているシンクタンク Z/Yen（ロンドン拠点）によれば、東京は、ニューヨーク、ロンドン、香港、シンガポール、上海に次ぐ6番目に位置する。

一方、シドニーや北京のようなほかの新興拠点がこのところ急速に順位を上げている。海外の金融センターが、金融市場の機能を強化し、ほかの金融センターとの連携を促進するためのプロモーション組織を持つことは珍しくない。これは、世界の政府等がそれぞれの金融センターの機能を高度化することによって経済活動を支援していこう、という意気込みを反映しているものだ。

東京は、この世界的な競争圧力にさらされている。順位に一喜一憂する必要はないが、東京の潜在力を発揮していく上でも、レースに取り残されるべきではない。過去にもFinCity.Tokyoに似たプロジェクトは幾つかあったが、必ずしも成功したとは言えない。今回のFinCity.Tokyoでは、3つの目標を設定することにより、東京の金融センターとしての機能向上を図ろうと考えている

3. 目標1（長期分散投資の促進）

日本には1,800兆円もの家計金融資産が蓄積されている。この半分は銀行預金の形であり、活用されているとは言い難い。デフレ経済の中では現金預金で保有するのが理に適っていたかもしれないが、デフレから脱しつつあるもとでは、合理的な行動ではなからう。さらには、日本人の平均寿命が延び、90歳から100歳まで長生きすることが予想される現在では、老後の生活を公的年金に大きく依存していた従来のライフスタイルを再考していくことが現実的であろう。

具体的には、高齢化社会での自助努力の戦略の一つとして、蓄積された金融資産を長期分散投資を通じて、より高いリターンを生む運用をしていくことが考えられる。株式は短期的には価格変動が大きい資産であるが、中長期的には預金や不動産より高いリターンを生み出すと考えられている。また、クロスボーダー投資などを含む多様な投資に向けられることも適当だと考えられる。長期分散投資を進めていく上では、高度な投資能力を持つ内外の資産運用会社が東京で切磋琢磨していくことを歓迎したい。



4. 目標2（グローバルステージへの入り口）

次に、東京には、グローバルな舞台への進出を企図する我が国やアジア太平洋地域の中小企業・新興企業にとって、世界の登竜門としての役割を果たしていくことを望みたい。つまり、ニューヨーク株式市場のようなグローバルなステージに進む前に、先ず東京の資本市場を利用し、雄飛するための財務基盤の強化に努めてほしい。このことは、内外投資家に東京がより多くの投資機会を提供することにも寄与する。

実際、日本には多くの潜在的に非常に有望な企業がある。私（筆者）は地域のビジネスリーダーとの会合のため、地方都市を訪れることがあるが、その際に最先端の技術に裏打ちされ、いずれ世界市場への挑戦を目指す多くの企業経営者とお会いした。これらの企業の多くは、英語での情報発信が不十分なため、世界の投資家には殆ど知られていない。これは本当に残念なことであり、グローバルな投資家が有望な中小企業・新興企業と出会える場としての東京市場の役割を高めて参りたい。

5. 目標3（金融インフラの連携強化）

2008年のリーマン・ショックに端を発する国際金融危機の経験などから、店頭デリバティブ取引に係る決済リスクの軽減と安全で効率的なクロスボーダー取引をサポートする金融インフラ強化の重要性が増している。

こうした観点から、例えば、日本銀行はアジアの主要金融センターとの資金・証券決済インフラのリンクを進めている。また、日本取引所（JPX）も世界の証券取引所との連携を進めている。金融を支える基幹インフラの連携強化は東京の市場参加者にとって利便性と安全性を高めると考えられる。

【 日経平均の推移 】



Source: Nihon Keizai Shimbunsha; compiled by FinCity.Tokyo

6. 日本が提供できるもの 1 (安定した経済・金融・政治環境)

東京が世界の金融センターとしての役割を高めるチャンスが増していると考えるのは、以下の理由からだ。

まず第一に、様々な不確実性に直面する世界経済の影響を受けながらも日本経済・金融は比較的安定しており、投資環境が改善している点だ。企業収益は高水準で、ROI（投資収益率）も改善を続けている。失業率は2%台前半とほぼ完全雇用の領域にあり、マクロ経済のファンダメンタルズは良好だ。労働力不足は、労働節約的な設備投資を促しており、これは労働生産性の向上を意味するものだ。また、労働参加率も上昇している。特に子育て世代の女性は現在では10人中8人が働いており、これは米国よりも高い数字となっている。

産業構造では、前述のように我が国には多数の優良企業を含む多くの中小企業に支えられた確固とした産業基盤がある。金融面では、米ドル、ユーロに続き、深い市場流動性のある国際通貨の円がある。円は安全な避難通貨と呼ばれているが裏返せば、これは日本円への信頼を反映するものだ。

さらに金融の基幹インフラの面では、日本銀行と民間金融機関の支払・決済システムは非常に高度な信頼性を誇っている。例えば、日本銀行の運営する資金・国債の決済システムであるBOJ-Netはダウンする確率は限りなくゼロに近い。現在は夜9時まで稼働しているが、潜在的には米国時間までも重なる24時間稼働する能力を有している。これらのフェイルセーフの決済システムは東京の金融センターとしての役割をしっかりと支えていくと考えられる。

経済活動の安定を支えているのが、政治的安定だ。そのもとでの一貫した経済政策が遂行されていることも内外投資家にとっては安心材料だろう。

7. 日本が提供できるもの 2 (投資とビジネスチャンス)

第二に外国の資産運用会社や投資家にとって、現在の日本の経済・金融環境は多様な投資機会を提供するという点だ。近年、我が国企業のコーポレートガバナンスは大きな進歩を遂げているし、配当等による株主還元、経営効率も進んでいる。こうした環境下で、海外の投資家にとっては日本の優れたテクノロジーを持つ中小企業、新興企業、ESG（環境・社会・ガバナンス）に優しい企業等、投資対象の選択肢が広がっている。

テクノロジーについて述べると、私は先日キャッシュレス社会への動きを視察するために、北欧諸国を訪問した。キャッシュレス化に向けた急速な動きに驚いたが、同時にキャッシュレス社会への移行推進技術の多くが日本により作られたとの事実も再認識した。QRコードは日本の発明であり、Suicaなどで使われているNFC（Near Field Communication <近距離無線通信：スマホをかざすなどによる決済機能等>）技術も、その一つのルーツは我が国にある。

8. 日本が提供できるもの 3 (生活環境)

第三に、生活の場としての日本の魅力にも触れておきたい。

日本は自然に恵まれ、四季折々の趣があって、豊かな文化と美食体験を提供できる。美食（グルメ）については、東京には200以上のミシュランの星を授与されたレストランがある。これはパリの119を上回り、世界の主要都市では最多である。

新幹線や通勤電車の鉄道システムは、世界最高の精度で運行されており、3分遅れの到着でも車掌が謝るくらいだ。東京への空の玄関口の一つ、羽田空港からは東京都心部に30分以内で到着できる。

また、東京は犯罪率が低いことでも知られており、世界で最も安全な大都市である。試してみることはお勧めしないが地下鉄で居眠りができる、あるいは財布を落としても戻ってくる可能性のある世界で唯一の大都市だろう。

教育面では、東京には多くのインターナショナルスクールがあるほか、公教育面では、国立大学の年間就学費用は米国のアイビーリーグ大学の10分の1未満とされる。また、最近では大学の多くのコースが英語で行われているようになっていることも、子女教育の点では魅力だろう。

9. FinCity.Tokyo について

FinCity.Tokyo は今年（2019年）4月1日に、創立されたばかりの組織であるが、国際金融センター東京を目指すという目的を共有する内外関係者と力を合わせて活動を進めている。現在は東京都を含む34の組織と証券取引所、金融機関、業界団体がこの活動に賛同するメンバーとなっている。

FinCity.Tokyo としては、今後さらに多様なメンバーを募るとともに、海外の金融都市との連携も図っている。その第一歩として、今年6月にはパリの国際金融センター構想を推進するユーロプラス（1993年にフランス中央銀行等が創設）と、資産運用会社の育成、フィンテック、サステナブル・ファイナンスの領域での協力を柱とする覚書を締結している。

10. 終わりに

「ローマは、一日にして成らず」。同様に国際金融センター東京も一朝一夕には成就されない。金融をめぐる経済情勢は劇的に変化している。日本に向けて吹いている、かつてない追い風を受けて東京の金融機能を向上・発展させる千載一遇のチャンスを捉えたい。そのために、国際金融の世界で培った経験と人的ネットワークを最大限に活用して参りたい。

以 上



執筆者紹介

中曾宏 (なかそ ひろし) 1953年 東京都生まれ
株式会社大和総研理事長

<学歴・職歴>

1978年 東京大学経済学部卒業
1978年 日本銀行入行
1997年 信用機構課長
2003年 金融市場局長
2008年 日本銀行理事
2013年 日本銀行副総裁
2018年 株式会社大和総研理事長